

## 理研への研究派遣報告

所属：創薬科学研究科 天然物化学分野（横島研）

学年：博士前期課程 2 年

氏名：栗本 道隆

### [出張先]

理化学研究所 田中生体機能合成化学研究室（埼玉県和光市）

### [出張期間]

2020 年 11 月 30 日 ～ 2020 年 12 月 15 日

### [概要]

ダブルメンター先である理化学研究所（理研）の田中克典先生、CHANG Tsung-che さん、VONG Kenward さんの指導の下、融合研究を行った。

### [所感]

今回の出張では、東京都東村山市にある父母の家に宿泊させていただき、毎日電車を使って理研に通った。大学から生まれ故郷を離れていたため、数年ぶりに長期間地元を滞在し、街や人々の大きな変化を感じた。埼玉県和光市の理研の敷地は広く、正門から田中生体機能合成化学研究室まで徒歩で 7、8 分かかりはするが、銀杏の木が黄色く紅葉し、歩くにあたって気持ちのいい道であった。



今回の融合実験では、所属研究室にて合成した化合物を、田中生体機能合成化学研究室で細胞実験へと展開した。研究室のメンバーに学生はおらず、全員が研究員であるのに加え、海外出身の方が多数を占めていた。研究室のメンバーの皆さんから懇切丁寧な教えを頂いたことを、この場を借りて感謝申し上げたい。さらに私自身の英語の能力が大変低く、コミュニケーション自体に不安を抱いていたが、海外出身の方の日本語が堪能であり、実際にはコミュニケーションで困ることは全くなかった。

実際に細胞実験を行うにあたって、VONG Kenward さんに準備、実験、指導をして頂いた。自分で合成した化合物が細胞実験へと用いられるのを目の前で見ることができたのは、大変良い経験であった。結果に関しても大いに議論することのできるものであり、大変有意義な時間を過ごした。



また今回用いた化合物の中には安定性が低いものがあり、それに関しては融合先研究室で合成・精製を行い、すぐに細胞実験を行った。この実験は融合先研究室へ訪問しているからこそできるものであり、融合実験の面白さ、奥深さを感じた。

### [謝辞]

今回融合研究を行うにあたって、ダブルメンターを引き受けていただいた田中克典先生および指導して下さった CHANG Tsung-che さん、VONG Kenward さん、ご支援をいただいた卓越大学院プログラムの皆さまに深く感謝いたします。

